

熱海市マンション管理適正化推進計画

(熱海市住生活基本計画 関連計画)

令和6年3月

熱 海 市

■ 熱海市マンション管理適正化推進計画

(1) 背景・目的

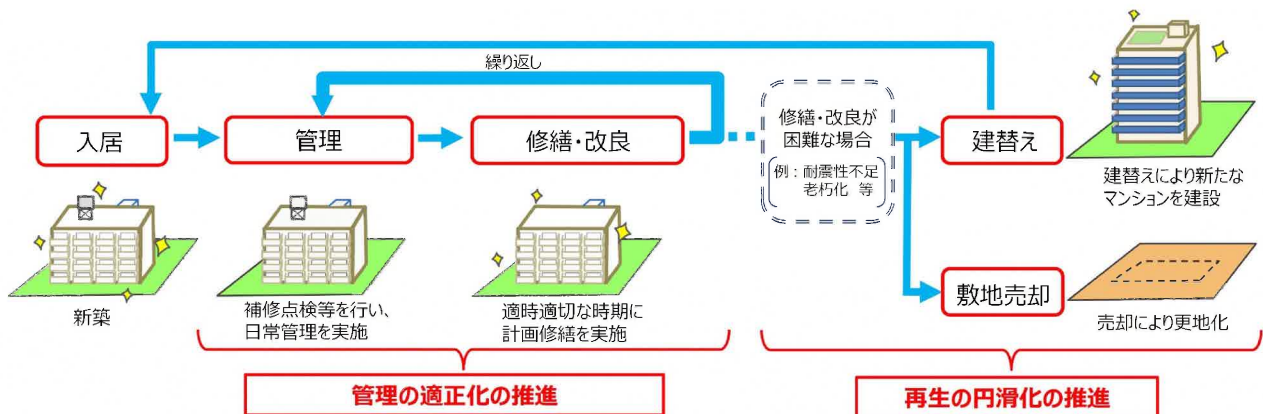
- 熱海市マンション管理適正化推進計画は、熱海市住生活基本計画に基づき、市内マンションの適正な維持・管理を図るための計画です。

本市におけるマンションは、海や山に囲まれた地形的な制約から市民の重要な居住形態となっているほか、温泉のある観光地・保養地としての特性から、リゾートマンションとして使われているものも多くあります。また、マンションの管理主体は、（区分）所有者で構成される管理組合であり、管理組合がマンションを主体的に管理する必要がある一方で、今後、管理組合の担い手不足や所有者の高齢化が進むことで、適切な修繕が行われず放置される高経年マンションが増加し、所有者の住環境の低下だけでなく、周辺環境にも悪影響を及ぼすことが懸念されます。

こうしたなか、2020年に、国は「マンションの管理の適正化の推進に関する法律」を改正し、地方公共団体によるマンション管理適正化推進計画の策定や、管理者等への助言、指導及び勧告、管理計画の認定制度等を新たに規定しました。

このような社会情勢の変化を踏まえ、本市においても、市内のマンション管理状況等を把握し、マンション管理の適正化に計画的に取り組むため、「熱海市マンション管理適正化推進計画」を策定します。

■ マンションの適正な管理と再生フロー（出典：国土交通省資料）



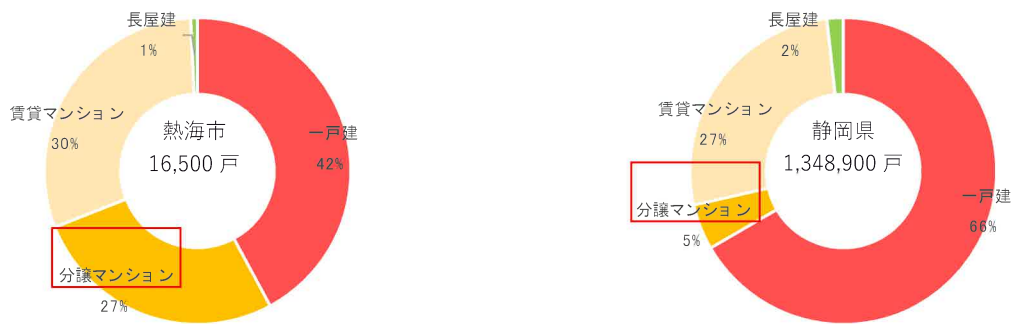
(2) 計画期間とマンション管理の適正化に係る目標

- 本計画は、住生活基本計画と同じく、今後10年間（2024年度から2033年度まで）としますが、施策効果の検証等を行うとともに、実態調査等を踏まえた施策の充実を図るため、必要に応じて見直しを行います。
- 本計画の目標として、「管理計画認定制度を受けたマンション数 10件」を設定します。

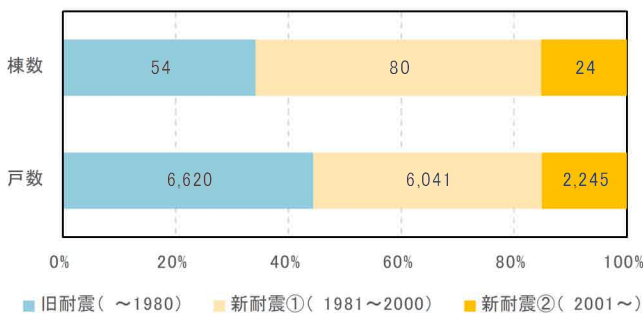
(3) 熱海市のマンションの現状と課題

- ① 本市では、分譲マンションに住む居住世帯が 27%となっており、マンションの適正な維持・管理は、重要な住政策のひとつとなっています。
- ② マンションの老朽化が進んでおり、棟数ベースで 30%以上、戸数ベースで 40%以上が、旧耐震基準の建築で、築 40 年以上となっています。
- ③ リゾートマンションや投資対象となっているものもあり、マンション定住率は 35%程度です。このことによって生じる管理運営上の問題も少なくありません。また、リゾートマンションに設備されている温泉大浴場やプールなど設備の維持管理上の問題もリゾートマンションの特徴となっています。

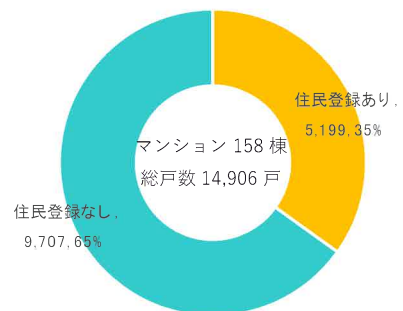
① 住宅の建て方 (出典：住宅土地統計調査 2018)



② マンションの老朽化 (出典：熱海市 2023)



③ マンションの定住状況 (出典：熱海市 2023)



(4) マンション管理の適正化に向けた取組

- 熱海市住生活基本計画と連携し、マンション管理適正化に係る以下の取組を推進します。
 - ① マンションの管理状況を把握するための取組
 - ② マンションの管理適正化に関する情報の提供と啓発に係る取組
 - ③ マンション管理の適正化を推進する取組

① マンションの管理状況を把握するために講ずる措置

- ・ 定期的な市内マンションの実態調査（アンケートを中心に、ヒアリングで補足）
 - … 利用実態調査： 戸数、建築年、用途（自己居住用、賃貸用、その他）、入居実態
 - … 管理状況：管理組合の有無・運営状況、長期修繕計画の有無・修繕積立金の状況、管理規約の有無
- ・ 実態調査等をもとに、市内マンションのカルテ作成

② マンションの管理適正化に関する情報の提供と啓発に係る取組

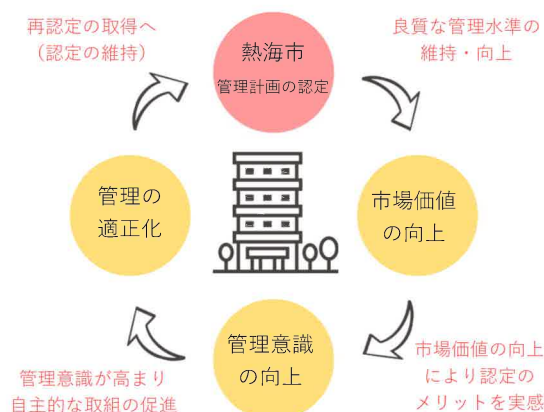
- ・ マンション管理に係るホームページや広報紙への掲載
- ・ マンション管理に係る相談体制の整備、セミナーの実施
- ・ マンション管理士の派遣による管理組合への支援

③ マンション管理の適正化を推進する取組

- ・ マンション管理計画認定制度の実施（5年毎の更新制）
- ・ 管理上問題となるマンションに対する助言・指導

■ マンション管理計画の認定による「メリット」

- ・ 良質な管理水準が維持され、市場において高く評価されることで、管理意識が向上し、管理適正化の適正化に繋がる
- ・ 住宅金融支援機構の「フラット 35」及び「マンション共用部分リフォーム融資」の金利の引下げや「マンションすまい・る債」の利率上乘せの対象となる
- ・ 長寿命化に資する大規模修繕工事を行ったマンションは、マンション長寿命化促進税制（固定資産税の減税）の対象となる



(5) 管理組合によるマンションの管理適正化に関する指針（熱海市マンション管理適正化指針）

- 熱海市マンション管理適正化指針は、国のマンション管理適正化指針と同様の内容とします。
- 本指針は、市内マンション管理組合に対し、マンションの管理適正化に向けて留意が求められる事項を示すとともに、市が管理組合等に対して、助言及び指導等を行う基準とします。
- また、本指針は、「マンション管理計画認定制度」における認定基準として運用します。
 - * 1 マンション管理適正化指針は、市内マンションの実態調査等を踏まえ、必要に応じ見直すこととします。（リゾートマンション、投資対象等、熱海市特有の課題を反映）
 - * 2 現在定めたマンション管理計画の認定基準は「必須基準」とし、今後、他分野連携の考え方を反映した熱海市独自の「選択基準」についても設定を検討します。（地域包括ケアと連携した高齢者対応、まちなか地育と連携した子育て対応、防災まちづくりと連携した防災対策等）

■ 熱海市マンション管理適正化指針（必須基準）

- 1 管理組合の運営
 - (1) 管理者等が定められていること
 - (2) 監事が選任されていること
 - (3) 集会在年1回以上開催されていること
- 2 管理規約
 - (1) 管理規約が作成されていること
 - (2) マンションの適切な管理のため、管理規約において災害等の緊急時や管理上必要なときの専有部の立入り、修繕等の履歴情報の管理等について定められていること
 - (3) マンションの管理状況に係る情報取得の円滑化のため、管理規約において、管理組合の財務・管理に関する情報の書面の交付（又は電磁的方法による提供）について定められていること
- 3 管理組合の経理
 - (1) 管理費及び修繕積立金等について明確に区分して経理が行われていること
 - (2) 修繕積立金会計から他の会計への充当がされていないこと
 - (3) 直前の事業年度の終了の日時点における修繕積立金の3か月以上の滞納額が全体の1割以内であること
- 4 長期修繕計画の作成及び見直し
 - (1) 長期修繕計画が「長期修繕計画標準様式」に準拠し作成され、長期修繕計画の内容及びこれに基づき算定された修繕積立金額について集会にて決議されていること
 - (2) 長期修繕計画の作成又は見直しが7年以内に行われていること
 - (3) 長期修繕計画の実効性を確保するため、計画期間が30年以上で、かつ残存期間内に大規模修繕工事が2回以上含まれるように設定されていること
 - (4) 長期修繕計画において将来の一時的な修繕積立金の徴収を予定していないこと
 - (5) 長期修繕計画の計画期間全体での修繕積立金の総額から算定された修繕積立金の平均額が著しく低額でないこと
 - (6) 長期修繕計画の計画期間の最終年度において、借入金の残高のない長期修繕計画となっていること
- 5 その他
 - (1) 管理組合がマンションの区分所有者等への平常時における連絡に加え、災害等の緊急時に迅速な対応を行うため、組合員名簿、居住者名簿を備えているとともに、1年に1回以上は内容の確認を行っていること
 - (2) 熱海市マンション管理適正化指針に照らして適切なものであること

【参考】国土交通省告示第 1286 号 令和 3 年 9 月 28 日(抜粋) (1/3)

三 管理組合によるマンションの管理の適正化の推進に関する基本的な指針（マンション管理適正化指針）に関する事項

本マンション管理適正化指針は、管理組合によるマンションの管理の適正化を推進するため、その基本的な考え方を示すとともに、地方公共団体が法第 5 条の 2 に基づき管理組合の管理者等に対して助言、指導等を行う場合の判断基準の目安を別紙 1 に、法第 5 条の 4 に基づき管理計画を認定する際の基準を別紙 2 に示すものである。

1 管理組合によるマンションの管理の適正化の基本的方向

マンションは、我が国における重要な居住形態であり、その適切な管理は、マンションの区分所有者等だけでなく、社会的にも要請されているところである。

このようなマンションの重要性にかんがみ、マンションを社会的資産として、この資産価値をできる限り保全し、かつ、快適な居住環境が確保できるように、以下の点を踏まえつつ、マンションの管理を行うことを基本とするべきである。

- (1) マンションの管理の主体は、マンションの区分所有者等で構成される管理組合であり、管理組合は、区分所有者等の意見が十分に反映されるよう、また、長期的な見通しを持って、適正な運営を行うことが必要である。特に、その経理は、健全な会計を確保するよう、十分な配慮がなされる必要がある。また、第三者に管理事務を委託する場合は、その内容を十分に検討して契約を締結する必要がある。
- (2) 管理組合を構成するマンションの区分所有者等は、管理組合の一員としての役割を十分認識して、管理組合の運営に関心を持ち、積極的に参加する等、その役割を適切に果たすよう努める必要がある。
- (3) マンションの管理には専門的な知識を要する事項が多いため、管理組合は、問題に応じ、マンション管理士等専門的知識を有する者の支援を得ながら、主体性をもって適切な対応をするよう心がけることが重要である。
- (4) さらに、マンションの状況によっては、外部の専門家が、管理組合の管理者等又は役員に就任することも考えられるが、その場合には、マンションの区分所有者等が当該管理者等又は役員の選任や業務の監視等を適正に行うとともに、監視・監督の強化のための措置等を講じることにより適正な業務運営を担保することが重要である。

2 マンションの管理の適正化のために管理組合が留意すべき事項

(1) 管理組合の運営

管理組合の自立的な運営は、マンションの区分所有者等の全員が参加し、その意見を反映することにより成り立つものである。そのため、管理組合の運営は、情報の開示、運営の透明化等を通じ、開かれた民主的なものとする必要がある。また、集会は、管理組合の最高意思決定機関である。したがって、管理組合の管理者等は、その意思決定にあたっては、事前に必要な資料を整備し、集会において適切な判断が行われるよう配慮する必要がある。

管理組合の管理者等は、マンション管理の目的が達成できるように、法令等を遵守し、マンションの区分所有者等のため、誠実にその職務を執行する必要がある。

(2) 管理規約

管理規約は、マンション管理の最高自治規範であることから、管理組合として管理規約を作成する必要がある。その作成にあたっては、管理組合は、建物の区分所有等に関する法律（昭和三十七年法律第六十九号）に則り、「マンション標準管理規約」を参考として、当該マンションの実態及びマンションの区分所有者等の意向を踏まえ、適切なものを作成し、必要に応じてその改正を行うこと、これらを十分周知することが重要である。さらに、快適な居住環境を目指し、マンションの区分所有者等間のトラブルを未然に防止するために、使用細則等マンションの実態に即した具体的な住まい方のルールを定めておくことも重要である。

また、管理費等の滞納など管理規約又は使用細則等に違反する行為があった場合、管理組合の管理者等は、その是正のため、必要な催告、指示等を行うとともに、法令等に則り、少額訴訟等その是正又は排除を求める法的措置をとることが重要である。

(3) 共用部分の範囲及び管理費用の明確化

管理組合は、マンションの快適な居住環境を確保するため、あらかじめ、共用部分の範囲及び管理費用を明確にし、トラブルの未然防止を図ることが重要である。

特に、専有部分と共用部分の区分、専用使用部分と共用部分の管理及び駐車場の使用等に関してトラブルが生じることが多いことから、適正な利用と公平な負担が確保されるよう、各部分の範囲及びこれに対するマンションの区分所有者等の負担を明確に定めておくことが重要である。

【参考】国土交通省告示第1286号 令和3年9月28日(抜粋) (2/3)

(4) 管理組合の経理

管理組合がその機能を発揮するためには、その経済的基盤が確立されている必要がある。このため、管理費及び修繕積立金等について必要な費用を徴収するとともに、管理規約に基づき、これらの費目を帳簿上も明確に区分して経理を行い、適正に管理する必要がある。

また、管理組合の管理者等は、必要な帳票類を作成してこれを保管するとともに、マンションの区分所有者等の請求があった時は、これを速やかに開示することにより、経理の透明性を確保する必要がある。

(5) 長期修繕計画の作成及び見直し等

マンションの快適な居住環境を確保し、資産価値の維持向上を図るためには、適時適切な維持修繕を行うことが重要である。特に、経年による劣化に対応するため、あらかじめ長期修繕計画を作成し、必要な修繕積立金を積み立てておく必要がある。

長期修繕計画の作成及び見直しにあたっては、「長期修繕計画作成ガイドライン」を参考に、必要に応じ、マンション管理士等専門的知識を有する者の意見を求め、また、あらかじめ建物診断等を行って、その計画を適切なものとするよう配慮する必要がある。長期修繕計画の実効性を確保するためには、修繕内容、資金計画を適正かつ明確に定め、それらをマンションの区分所有者等に十分周知させることが必要である。

管理組合の管理者等は、維持修繕を円滑かつ適切に実施するため、設計に関する図書等を保管することが重要である。また、この図書等について、マンションの区分所有者等の求めに応じ、適時閲覧できるようにすることが重要である。

なお、建設後相当の期間が経過したマンションにおいては、長期修繕計画の検討を行う際には、必要に応じ、建替え等についても視野に入れて検討することが望ましい。建替え等の検討にあたっては、その過程をマンションの区分所有者等に周知させるなど透明性に配慮しつつ、各区分所有者等の意向を十分把握し、合意形成を図りながら進める必要がある。

(6) 発注等の適正化

管理業務の委託や工事の発注等については、事業者の選定に係る意思決定の透明性確保や利益相反等に注意して、適正に行われる必要があるが、とりわけ外部の専門家が管理組合の管理者等又は役員に就任する場合においては、マンションの区分所有者等から信頼されるような発注等に係るルールの整備が必要である。

(7) 良好な居住環境の維持及び向上

マンションの資産価値や良好な居住環境を維持する観点から、防災に係る計画の作成・周知や訓練の実施、被災時を想定した管理規約上の取り決め、火災保険への加入等、管理組合としてマンションにおける防災・減災や防犯に取り組むことは重要である。

また、防災・減災、防犯に加え、日常的なトラブルの防止などの観点からも、マンションにおけるコミュニティ形成は重要なものであり、管理組合においても、区分所有法に則り、良好なコミュニティの形成に積極的に取り組むことが重要である。

一方、自治会及び町内会等（以下「自治会」という。）は、管理組合と異なり、各居住者が各自の判断で加入するものであることに留意するとともに、特に管理費の用途については、マンションの管理と自治会活動の範囲・相互関係を整理し、管理費と自治会費の徴収、支出を分けて適切に運用する必要がある。なお、このように適切な峻別や、代行徴収に係る負担の整理が行われるのであれば、自治会費の徴収を代行することや、防災や美化などのマンションの管理業務を自治会が行う活動と連携して行うことも差し支えない。

(8) その他配慮すべき事項

マンションが団地を構成する場合には、各棟固有の事情を踏まえつつ、全棟の連携をとって、全体としての適切な管理がなされるように配慮することが重要である。複合用途型マンションにあつては、住宅部分と非住宅部分との利害の調整を図り、その管理、費用負担等について適切な配慮をすることが重要である。

また、管理組合は、組合員名簿や居住者名簿の管理方法等、個人情報の取り扱いにあつては、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）による個人情報取扱事業者としての義務を負うことに十分に留意する必要がある。

3 マンションの管理の適正化のためにマンションの区分所有者等が留意すべき事項

マンションを購入しようとする者は、マンションの管理の重要性を十分認識し、売買契約だけでなく、管理規約、使用細則、管理委託契約、長期修繕計画等管理に関する事項に十分に留意することが重要である。また、管理組合及びマンションの区分所有者等は、マンションを購入しようとする者に対するこれらの情報の提供に配慮する必要がある。

マンションの区分所有者等は、その居住形態が戸建てとは異なり、相隣関係等に配慮を要する住まい方であることを十分に認識し、その上で、マンションの快適かつ適正な利用と資産価値の維持を図るため、管理組合の一員として、進んで、集会その他の管理組合の管理運営に参加するとともに、定められた管理規約、集会の決議等を遵守する必要がある。そのためにも、マンションの区分所有者等は、マンションの管理に関する法律等についての理解を深めることが重要である。

専有部分の賃借人等の占有者は、建物又はその敷地若しくは附属施設の使用方法につき、マンションの区分所有者等が管理規約又は集会の決議に基づいて負う義務と同一の義務を負うことに十分に留意することが必要である。

【参考】国土交通省告示第 1286 号 令和 3 年 9 月 28 日(抜粋) (3 / 3)

4 マンションの管理の適正化のための管理委託に関する事項

管理組合は、マンションの管理の主体は管理組合自身であることを認識したうえで、管理事務の全部又は一部を第三者に委託しようとする場合は、「マンション標準管理委託契約書」を参考に、その委託内容を十分に検討し、書面又は電磁的方法（管理組合の管理者等又はマンションの区分所有者等の承諾を得た場合に限り。）をもって管理委託契約を締結することが重要である。

管理委託契約先を選定する場合には、管理組合の管理者等は、事前に必要な資料を収集し、マンションの区分所有者等にその情報を公開するとともに、マンション管理業者の行う説明会を活用し、適正な選定がなされるように努める必要がある。

管理委託契約先が選定されたときは、管理組合の管理者等は、説明会等を通じてマンションの区分所有者等に対し、当該契約内容を周知するとともに、マンション管理業者の行う管理事務の報告等を活用し、管理事務の適正化が図られるよう努める必要がある。

万一、マンション管理業者の業務に関して問題が生じた場合には、管理組合は、当該マンション管理業者にその解決を求めるとともに、必要に応じ、マンション管理業者の所属する団体にその解決を求めるとともに、その措置を講じる必要がある。